

平成27年度 全国学力・学習状況調査における勝山市の結果について

勝山市教育委員会

平成27年度全国学力・学習状況調査（小学校6年生、中学校3年生対象・4月実施）について、勝山市の児童生徒の結果をお知らせします。

学校と勝山市教育委員会では、児童生徒一人一人の学びの充実を図り、「生きる力」を育てるため、引き続き家庭や地域と連携した教育活動の推進に努力してまいります。そのために、学力の特定の一部分ではありますが、本調査の結果を有効に活用していきたいと思っております。

また本調査からは、児童生徒の学習状況や生活の様子についてもふり返る材料を得ることができます。学力との関連性など、ぜひご家庭でもより良い生活の仕方について話し合っていたいただきたいと思います。

【1】勝山市の平均正答率について

勝山市全体の平均正答率を、福井県および全国の平均正答率とのポイント差(点数差)により比較します。

「高い」 > 3 3 ≥ 「やや高い」 > 1 1 ≥ 「同程度」 ≥ -1 -1 > 「やや低い」 ≥ -3 -3 > 「低い」

	教科名	県と比較して	国と比較して
小学校	国語 A	やや低い	やや高い
	国語 B	同程度	高い
	算数 A	同程度	高い
	算数 B	同程度	高い
	理科	やや高い	高い
中学校	国語 A	同程度	高い
	国語 B	高い	高い
	数学 A	同程度	高い
	数学 B	やや高い	高い
	理科	やや高い	高い

A問題：主として「知識」に関する問題

B問題：主として「活用」に関する問題

【2】各教科の概要について

<小学校>

	成果	課題
国語	○漢字を正しく読むこと ○物語の内容を読み取ること ○説明文で具体的な例を挙げて説明すること	▲目的に応じて必要な内容だけを引用すること ▲二つの内容を関連づけて自分の考えを書くこと
算数	○整数や小数、通分を必要とする分数の計算 ○円と二等辺三角形の関係など、図形を構成する要素を理解すること ○正しい方法を見つけ、それを利用して問題解決すること	▲グラフに示されている情報を読み取ること ▲根拠を見つけ出し、筋道を立てて理由を説明すること ▲比較量と割合から、基準量を求めること

理科	<ul style="list-style-type: none"> ○メダカの雌雄を正しく見分けること ○振り子などの実験を、条件制御しながら計画すること ○金属などの基礎的な物質の性質や、水が水蒸気になる現象名を記述すること 	<ul style="list-style-type: none"> ▲顕微鏡やメスシリンダーを適切に使うこと ▲溶解度の違いによって、再結晶しやすい物質とにくい物質があることを理解すること ▲方位と天体の位置や、天体の動きを知るために必要な要素を理解すること
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○漢字学習や音読など、繰り返し取り組んでいることは、確実に力がついていました。進んで読書をすることは、学習の基礎となる力を伸ばします。好きな本を読んだり、図鑑で調べたりして本に親しんでいくことが大切です。

▲一方、文章を正しく読むことや書くことには、課題がありました。主語や述語を捉えて読んだり、自分の考えを整理しながら書いたりする力を育てるため、授業でも工夫して指導していきます。引用については、かぎ括弧(「 」)を使って、他と区別したい言葉や文を示すときに用いる経験が少なかったと考えられます。身の回りの文章の中で確かめる活動を授業に取り入れ、指導していきます。

○算数では、整数、小数、分数を用いた基礎的な計算力がよく身につけています。図形の性質を基に、角の大きさや辺の長さを求めることも、よくできていました。

▲ただ、比較量と割合を用いて基準量を求めることや、根拠を見つけて筋道を立てて説明すること、検算に対する理解に課題が見られました。主体的に思考を進め、筋道立てて考える学習を工夫していきます。

○理科では、振り子が1往復する時間を変えるための要因について正しく判断できていました。メダカの雌雄を見分ける方法や、金属の性質、身近な現象名など、基礎的な知識・理解力もよく身につけています。

▲一方、代表的な器具の適切な使い方は、大体は知っているものの不十分なところがありました。また、溶解度に関する学習や天体に関する学習に課題が見られたので、授業での指導法を工夫していきます。

<中学校>

	成 果	課 題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の気持ちや行動に注意して、内容を理解するということ ○文章から適切な情報を得て、考えをまとめる力 	<ul style="list-style-type: none"> ▲文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明らかにして自分の考えを書くこと ▲複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くこと
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○正・負の数を含む四則計算や比、文字式の計算 ○三角形の合同条件を理解し、証明の根拠とすること ○発展的に考え、予想した事柄を説明したり、証明したりすること 	<ul style="list-style-type: none"> ▲比較量と割合を基に、基準量を文字式で表すこと ▲数学用語や数式を的確に用いて説明すること ▲二元一次方程式の解を座標とする点の集合が直線になることへの理解
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な語句や記号、化学式の理解 ○グラフから実験結果を読み取り、理由を解釈すること ○実験結果を分析して、例えば反応する物質の質量の間にある関連性を見いだすこと 	<ul style="list-style-type: none"> ▲雲のでき方を正しく説明すること ▲重量パーセント濃度を利用して、溶媒と溶質の質量を求めること ▲溶解度曲線を利用し、析出量を求めること ▲予想や仮説を立てて実験を計画すること

○学習の基礎となる国語の力がついています。特に、読むことに関する力が向上しています。これからも毎日の授業や本を読むことを通して、言葉を豊かにする経験をたくさん積み重ねて欲しいと思います。

▲書くことについては、課題があります。条件がついている作文の場合、条件を満たすことには注意して

も、問われたことに対する自分の考えを明らかにして書くことが難しいようです。授業の中でも、条件に合わせて、自分の考えをまとめるという場面をより多く取り入れていきます。

○数学では、四則計算や比を用いた計算力がよく身につけています。三角形の合同を利用した証明についてもよくできており、さらに発展的に説明・証明する力もついています。また、難しい問題に対しての無回答率が極めて低く、粘り強く取り組み、何かしら自分の考えを書こうとする姿勢が感じられます。

▲一方で、割合を利用して文字式を考えたことや二元一次方程式の解の理解について、課題が浮き彫りになりました。数学用語や数式を目的に合わせて利用して自分の考えを書くことにも課題があります。授業を通して、方程式と関数を相互に関連づけて捉えたり、理論立てて説明したりする工夫をしています。

○理科では、主な語句や記号の読み取り方、化学式についての知識やオームの法則を利用した計算など、基礎的な内容についてよく定着していました。観察・実験についてはグラフから結果を読み取る力や結果を分析して考察する力がついており、日頃の授業の成果が表れています。

▲しかし、凸レンズに関する実験や電磁誘導について考える実験では、その規則性や磁界の変化などを説明することに課題が見られました。小学校と同様に、溶解度に関する問題など、水溶液に関連した学習にも課題が見られました。目に見えない現象を理解できるよう、授業で工夫していきます。

【3】児童生徒質問紙について

(1) 「良好な点」と「改善したい点」について

今回の調査では、生活態度面や全般的な学習態度面について、およそ50の質問がありました。これらの結果から、勝山市の児童生徒について良好な点と改善したい点をまとめました。

県の平均値と比べて、明らかに上回ったものを中心に「良好な点」、明らかに下回ったものを中心に「改善したい点」としました。

<小学校>

良好な点	改善したい点
○ほとんどの児童が朝食を食べている。	▲自分にはよいところがない・どちらかといえ ばないと思っている児童が約25%いる。
○同じ時刻に起床、就寝している。	▲平日1日あたりのゲーム時間が長い。2時間 以上の児童が25%以上いる。ただし去年は 30%超なので、改善傾向はある。
○難しいことにも失敗を恐れず挑戦する。	▲平日1日あたりの携帯電話やスマートフォ ン利用時間が長い。約10%の児童が毎日2 時間以上利用。1時間以上となると16%を 超える。
○平日1日あたりのテレビ・ビデオの視聴時間が県・国 より短くなった。(ただし、2時間以上が約55%)	▲学校の授業以外では本を読まない児童が約 15%いる。
○家庭学習に取り組む児童が多い。毎日少なくとも 1時間以上取り組む児童は約60%。	▲家の人に学校での出来事について話をする 児童は県・国よりも少ない。
○読書が好きだと答えた児童が多い。	▲家で学校の宿題をしないと答えた児童が県・ 国より多い(6%)。
○授業以外で1日あたり30分以上読書をしている児 童が多い。	▲学校のきまりを守っていないと答えた児童 が県・国より多い(15%)。
○家で、自分で計画を立てて勉強している児童が多い。	
○家で予習をする児童は約60%、復習をする児童は 約75%いる。	
○地域の行事にほとんどの児童が参加している。	
○新聞を読む児童が多い。	
○いじめはどんな理由があってもいけないことだと ほとんどの児童が考えている。	

○授業で分からないことがあったら、先生や友達、家の人に尋ねることができる児童が多い。	▲自分の考えを他の人に説明したり、書いたりすることが難しいと思う児童が多い。
--------------------------------------------	----------------------------------------

<中学校>

良好な点	改善したい点
<p>○ほとんどの生徒が朝食を食べている。</p> <p>○同じ時刻に起床、就寝している。</p> <p>○物事を最後までやりとげ、嬉しかった経験がある生徒が増えた。</p> <p>○難しいことにも失敗を恐れず挑戦する生徒が増えた。</p> <p>○自分には良いところがあると思う生徒が増えた。</p> <p>○将来の夢や希望を持っている生徒が92%と、県・国の現状を大きく越えた。</p> <p>○友だちの話や意見を最後まで聴くことができる。</p> <p>○家庭学習が定着し、平日1日あたり2時間以上している生徒が多い。土日1日あたり2時間以上家庭学習をする生徒は約75%。</p> <p>○家庭で約60%の生徒が予習に、約75%の生徒が復習に取り組んでいる。</p> <p>○授業以外で1日あたり30分以上読書をしている生徒が多い。</p> <p>○学校の図書室や図書館を利用している生徒が多い。</p> <p>○家の人に学校での出来事について話をする生徒が多い。</p> <p>○地域の行事にほとんどの生徒が参加している。</p> <p>○新聞をよく読んでいます。</p> <p>○地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある生徒が多い。</p> <p>○いじめはどんな理由があってもいけないことだとほとんどの生徒が考えている。</p> <p>○授業で分からないことがあったら、先生や友達、家の人に尋ねることができる生徒が多い。</p>	<p>▲自分には良いところがない・どちらかといえばないと思っている生徒が約25%いる。</p> <p>▲1日あたりのテレビやビデオ・DVDの視聴時間は県・国より短い、約40%は毎日2時間以上視聴している。</p> <p>▲1日あたりのゲーム時間は県・国より短い、約25%は毎日2時間以上している。</p> <p>▲1日あたりの携帯電話やスマートフォン使用時間は県・国より短い、約20%は毎日2時間以上使用している。</p>



(2) 正答率との間に関連が見られた質問について

質問の中から、学力調査の正答率と関連があると思われる項目について、代表的なものを12例まとめました。ぜひ、ご家庭でも話題にとりあげ、指導に生かしてください。

なお、右端欄内のポイント数は、各項目について「当てはまる」と答えた児童・生徒と、「当てはまらない」と答えた児童・生徒との平均正答率の差を教科ごとに示したものです。

項目	教科ごとの正答率の差
起床時刻が定まっている児童生徒は正答率が高い。	小学国語B 29ポイント差
	小学算数B 22ポイント差
	中学国語A 16ポイント差
	中学数学A 18ポイント差
	中学理科 19ポイント差

<p>ものごとを最後までやりとげ、嬉しかった経験がある児童生徒は正答率が高い。</p> <p>H26年度同様</p>	<p>小学国語B 17ポイント差</p> <p>小学算数A 16ポイント差</p> <p>小学算数B 18ポイント差</p> <p>中学国語A 10ポイント差</p>
<p>自分にはよいところがあると思う児童生徒は正答率が高い。</p> <p>H26年度同様</p>	<p>小学国語B 11ポイント差</p> <p>小学算数B 12ポイント差</p> <p>小学算数B 13ポイント差</p> <p>中学数学B 15ポイント差</p>
<p>友達の前で、自分の考えや意見を発表することが得意だと思う児童生徒は正答率が高い。</p>	<p>小学国語A 11ポイント差</p> <p>小学算数B 12ポイント差</p> <p>中学数学B 28ポイント差</p> <p>中学理科 20ポイント差</p>
<p>将来の夢や目標を持っている児童生徒は正答率が高い。</p>	<p>小学算数A 14ポイント差</p> <p>小学算数B 16ポイント差</p> <p>小学理科 11ポイント差</p> <p>中学数学A 6ポイント差</p>
<p>1日当たりのテレビ・DVD視聴時間が長い児童生徒は正答率が低い。</p> <p>H26年度同様</p>	<p>小学国語B 28ポイント差</p> <p>小学算数B 24ポイント差</p> <p>中学国語A 14ポイント差</p> <p>中学理科 17ポイント差</p>
<p>1日当たりのゲーム時間が長い児童生徒は正答率が低い。</p> <p>H26年度同様</p>	<p>小学国語B 18ポイント差</p> <p>小学算数B 20ポイント差</p> <p>小学理科 16ポイント差</p> <p>中学国語A 14ポイント差</p> <p>中学数学B 27ポイント差</p>
<p>1日当たりの携帯電話・スマートフォンの使用時間が長い児童生徒は正答率が低い。</p> <p>H26年度同様</p>	<p>小学国語B 34ポイント差</p> <p>小学理科 20ポイント差</p> <p>中学数学B 24ポイント差</p> <p>中学理科 18ポイント差</p>
<p>家で、学校の授業の復習をしている児童生徒は正答率が高い。</p>	<p>小学国語B 16ポイント差</p> <p>小学算数A 13ポイント差</p> <p>中学国語B 12ポイント差</p> <p>中学数学B 16ポイント差</p> <p>中学理科 13ポイント差</p>
<p>地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある児童生徒は正答率が高い。</p>	<p>小学国語B 19ポイント差</p> <p>小学算数B 16ポイント差</p> <p>中学数学B 15ポイント差</p> <p>中学理科 14ポイント差</p>

学校のきまりを守っている児童生徒は正答率が高い。	小学算数B 23ポイント差 小学理科 32ポイント差 中学数学A 15ポイント差 中学数学B 18ポイント差
総合的な学習の時間を肯定的に捉えている児童・生徒は正答率が高い。 H26年度同様	小学国語B 17ポイント差 小学国語B 16ポイント差 中学数学A 10ポイント差 中学理科 14ポイント差

(3) 質問紙から得られた結果について

○規則正しい生活習慣を持ち、予習・復習を含めた家庭学習にしっかり取り組む勝山市の児童生徒の良さが表れています。今はまだ先生から出された宿題が家庭学習の中心だと思いますが、家庭学習が自分に合った必要な学習を進める機会となるよう、今後とも工夫していきます。

▲小学校では、「自分にはよいところがある」と答えられる児童が県より少なく、同様に「自信を持って意見を言える」という児童も少なかったです。このことは、「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童の割合が県より少ないこととも関連しています。今後も児童一人一人を見つめ、その努力を褒めるなどの働きかけを通して自己肯定感を高め、夢や希望を持って生活できる児童を育成するよう心がけてまいります。

○一方、中学校では「自分には良いところがある」「将来の夢や目標がある」と答えた生徒数がかかなり増えました。生徒にとって、自己肯定感を持つことができる環境にあることは極めて重要です。このことは、勝山市の中学生の平成27年度正答率が上昇傾向にあることと無関係ではないでしょう。多感な中学時代にこそ、様々な角度から自己と向き合ったり、夢や希望を思い描いたりする時間を過ごさせたいものです。

○地域の行事に参加しているという児童生徒は県・国と比較してかなり高く、児童生徒が地域とともにある勝山市の良さが分かります。この良さを生かし、地域に根ざした学校経営をさらに推進します。

○7割以上の児童生徒が「読書が好き」と答え、実際の読書時間も充実しつつあります。学校以外で全く読書をしないという児童生徒も1割程度まで減少しました。今後も引き続き、学校のみならず家庭においても、読書習慣の確立に向けた指導が望まれます。

○総合的な学習を肯定的に捉えている児童生徒が多く、そのような児童生徒はA・B両問題で正答率が高い傾向が今年度の調査からも見取れます。ESDの視点を生かした環境学習やふるさと学習が、確実に成果をあげ始めています。

○今年度は、児童生徒のテレビ視聴やゲームにあてる時間、携帯電話やスマートフォンを利用する時間が県・国よりも短いという方向へ改善されました。これらメディアの利用はこれからの社会においては不可欠なものです。各家庭でのメディア利用時間には大人の指導によるコントロールが必要です。学校でもルール作りや指導を継続しますので、ご家庭でのルール作りも引き続きお願いします。

【4】今後の方針について

(1) 学校で取り組むこと

※以下のもの以外にも、各校の方針があります。

<ア>ていねいな教育、鍛える教育

教員が児童生徒一人一人と向き合って、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、身につけた知

識や技能を用いてより質の高い学びを追求します。また、児童生徒が協力して課題を解決したり、教え合ったりする場面を取り入れ、協働して学びながら様々な課題に挑戦していけるよう工夫します。

<イ>見通しと振り返りのある授業

児童・生徒が授業中に迷いなく学べるよう、授業の初めに見通しを持たせます。授業のまとめでは学んだことを振り返り、学習内容が身につくよう押さえます。また、授業の中に短時間復習を取り入れるなど、学習内容を何度も復習するチャンスがある授業づくりを行います。

(2) ご家庭にお願いしたいこと

<ア>規則正しい生活習慣の定着

生活リズムが崩れる第一歩は夜更かしです。就寝時刻を家族で決めて、早寝早起きを心がけた生活をするようにお願いします。また、生活リズムの中に、家族の読書タイムを組み入れることができたらずばらしいです。

<イ>テレビやゲーム、携帯電話、スマートフォンに費やす時間のコントロール

学校での指導には自ずと限界があります。各家庭で、これらの使用ルールを決めて、その範囲内で使わせてください。

<ウ>家族が話す時間を大切に

家事のお手伝いをしている時や食事のテーブルを囲んでいる時などに、家族で話をしましょう。互いの話を聴き合い、認め合うなどのあたたかなふれ合いが、児童生徒の心身の成長には不可欠です。

【5】むすび

ここ数年の全国学力調査における勝山市の状況を見ると、小学校では市の平均正答率が国語・算数ともに県平均を下回る年度もありましたが、年々改善して平成25年度には全てが県平均を上回る状況でした。

一方、中学校においては毎年、国語・数学ともに市の平均正答率が県平均を上回り、かなり高い水準で推移してきました。平成26年度は、小学校・中学校ともに前年を下回る結果でしたが、平成27年度には改善傾向にあります。今年度調査に加わった理科も、良好な結果を得ています。これからも、小学校においてよりしっかりと基礎学力を身につければ、中学校でのさらなる学力向上が期待されます。

この全国学力調査は限られた教科であり、学校教育の一部に過ぎません。子どもたちには、多様な面での力を養い、成長して欲しいと考えます。ただ、将来、社会人として幅広く活躍するには、小中学校での学習内容を十分習得することが重要な基礎になるものと考えます。そうした観点から、この学力調査の結果を踏まえて、今後さらに効果的な学習の進め方を研究し、一層の学力向上に努力してまいります。

保護者をはじめ市民の皆様の一層のご理解、ご協力をお願いいたします。